　　　　　　　　 令和の時代を迎えて

　5月25日、令和元年、支部理事会、総会、研究会が無事に開催されました。

令和元年を迎え約1カ月がたち「令和」の名称にもなれてきたところですが、その意味は「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つという意味が込められている」そうです。

　安倍首相も桜を見る会の時に「春に咲き誇る美しい花のように、一人一人がそれぞれの花を咲き誇らせることのできる時代をつくっていこう」と述べられていました。それを伺って、まさにこの全幼研が目指している方向と同じだ、令和の時代は全幼研の時代なんだ！と思いました。一人一人の幼児が未来に伸びていく力を育てる全幼研でありたいと思います。

　来年は２０２０年東京オリンピック・パラリンピックと兵庫大会・愛知教育経営研修会、そして２０２１年は全幼研70回記念の東京大会もあります。令和の時代に私たちも力を発揮し、世界に目を向けながら幼児教育に皆様と共に力を合わせて取り組んでいきたいと思います。

　未来や、世界を見据えて進んでいくと申したところで、逆行するかもしれませんが、今私の興味のあることに、6月25日~7月13日までに行われる「3万年前の航海再現プロジェクト（国立科学博物館）」があります。人間は200万年前にアフリカで誕生して陸地を移動しながら世界に広がってきたと言われていますが、島国日本にその人々が渡ってきたのは3万年前と推定されています。日本列島の入り口である台湾から与那国島にどうやって日本列島人が渡ってきたかを再現するというものです。その世界最大規模の黒潮が流れる難関を3万年前の人々はどんな気持ちで船をこいできたのかなあと考えると、日本人の祖先はすごいパワーのある人々だったのだろうと思います。到着できず、死んでしまうかもしれない危険を感じながらも、まだ見ぬ世界に夢をはせ、勇気と希望をもって船をこぎ続け到着し、その子供たちはその後も冒険を続け、島伝いに列島に進んできて、今の日本人になり、3万年後の今の私たちが生きていると考えると、日本人の力強さが根底にあることを感じます。

　プロジェクトの成功を願うとともに、その歴史の上に立ち、私たち全幼研も未来へ、世界へ視野を広げて、幼児教育を考えていければと思います。新しい時代に、全幼研の歴史と文化を引き継ぎながらも、新しいこと新しい企画で対応していけますように各支部の皆様と共に活動していきたいと思います。

　今年度もどうぞご支援・ご協力よろしくお願いいたします。

　　　　　　　　　　令和元年5月２６日　　理事長　　福井　直美